

続々

キラリ輝くこの子のために(10)

7月3日(土)PTAセミナーでは、はなもみじ連載「キラリ輝くこの子のために」で述べてきたことを話させていただきました。熱心に話をお聴きいただいた上に、感想用紙の中には、これからの子育ての励みとなったこととお書きいただいた方々もありました。

その中には、いくつか質問が寄せられていましたので、感謝の気持ちを込めて、簡単に思いを述べさせていただきます。

質問「怒り出すと子どもを傷つける言葉ばかりを投げつけてしまいます」

質問「『暴力を使わない』は、今からでも間に合いますか」

質問「一度亀裂の入った親子関係を修復するにはどうしたらよいですか」

子育ては、やり直しはできません。しかし、いつでも、見直しはできます。常に人生は修復できると思わなくては、辛くなってしまいます。

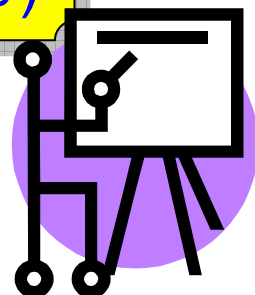
子育ての仕方が間違っていると感じたならば、それを直していく努力をすることです。すぐに、よい子育てができるようになりませんが、課題を感じ、見直しを続けるかぎり、子育てはよりよいものになっていきます。また、子どもが自分の理想どおりでなくても、ほどほどに折り合いをつけましょう。

暴力や叱責は、速効性があります。しかし、子どもの心を傷つけます。ダメージで言うことをきかせているのですから、子どもの心は元気がなくなっていきます。本当に必要なのは、じっくりと心の中に浸み込んでいくような親の愛です。親の愛は、無償の愛といわれます。見返りを求めず、子どもを温かく見守り続けてあげてください。

質問「子どもの悪いところに目がいてしまいます。対処法は？」

質問「ウソをつくことが多くなってきました。自分から、よくないことをやめさせるには、どうしたらよいでしょうか」

だれもがもっとよくなりたいたいという向上心があります。悪いことをしたり、ウソをついたりするには、その背景(原因)があるはず。最後の行動をしか



る前に、どうしてそうなったのか、子どもなりの言い分をよく聴いてあげることです。大人は勝手な言い分と感じて、子どもは真剣です。

まずはそれを受けとめてあげて、大人の思いもわかりやすく話します。どうすればよかったかも、一緒に考えます。押し付けでなく、自分で決めるようにします。そして、次にうまくいったときに、それを認めてあげることです。褒め方のコツは、行動を褒めることと、褒めるタイミングはその最中か直後が有効的です。



自分のことを理解しようとしてくれるという信頼が生まれると、ウソも減るでしょうし、心の悩みを素直に話してくれるようになるでしょう。

質問 「『見通しを持ちやすく』とは、具体的にどんなことですか」

子どもは大人に比べて経験が少なく、不安から、新しいことに取り組もうとしないことがあります。失敗もしやすくなります。そこで、見通しをもちやすくすると、得体の知れぬ不安から解放され、情緒の安定がうまれます。

「一日の生活の流れを一定にする」「始めと終わりをはっきりさせておき、その間のステップをわかりやすく提示する」「少しがんばればできるめあてに向けて、決められた時間内で取り組む」等がよいでしょう。



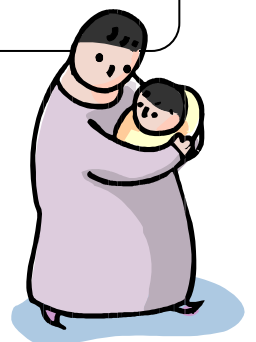
どのように行動してよいか分からない子どもには、スケジュールを絵や文章で伝えます。理解しやすいように、なるべく短い言葉で話すことも効果的です。予定を変更しない、万一、変更するなら予告をしてあげること重要です。

しなければならないこと、してほしいことをわかりやすく「構造化」して示していくように心がけましょう。

質問 「『心を支える』とは、どのようにすればよいのですか」

子どもにとって、学校は、ときとして厳しい場となります。悩み苦しんでいるとき、「もっとがんばりなさい」「やればできるでしょう」と言われると、よけいに自分はだめだと思ってしまいます。

「今のあなたのままでいい」「今のあなたが素晴らしい」と心から言ってあげ、抱きしめてあげるときも必要です。



子どもがいるおかげで、親の人生は2倍、3倍になります。子育てをすることで、親は育ちます。子どもの成長が、自分にとって何よりもうれしいことになっていきます。そうやって、私たちも育ててもらいました。親になり、その恩をわが子に返していくのです。